

(ますますゲーム本編に  
)救済なんてあらへん  
で！絶対に笑ってはい  
けないグリフィン正規  
軍監査24時

伊勢村誠三

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

某月某日。HK416、G11、UMP9、M4 SOPMOD II、RO635は呼び出された先でM16にこう告げられた。

「私達が味わった地獄をお前らにも味わってもらおうと、前回お前らがやった役を全部私らが引き継いでやるって訳だ！」

唯一2年目のUMP9の抗議を無視して次々と送り込まれるグリフィンが誇る笑いの刺客たち。果たして5人は無事に帰れるのか？そして画面の前のあなたは本編と矛盾どころの騒ぎじゃないというツツコミを抑えて読み切ることが出来るのか？

前作を読んだ方が楽しめます。生暖かい目で見守ってください。

# 目次

オープニング	1
バスにて その1	8
指揮官に挨拶	16
待機室にて	25
悪夢は引き出しからやって来る	33
最後ノ引出	48
鬼ごっこ開始	56
グラウンドにて	64
お昼ご飯	75
引き出しの奥	83
お色直し	89
締めはやっぱりこれだろう	100



# オープニング

とある司令部に404小隊の3人は呼び出された。

UMP9「珍しいね。45姉抜きで任務なんて。」

G11「めんどくさいよ〜」

416「文句言わないの。さっさと済ませて帰るわよ。」  
扉を開けて中に入る。そこに居たのは

RO「あら、あなた達は」

SOPMOD「久しぶりー!」

G11「AR小隊の生き残りコンビじゃん。」

416「あの時以来ね。あなた達も呼ばれて?」

RO「はい。そろそろ指揮官が来るはずなのですが…」

???「残念ながらそれは無いな!」

UMP9「な、何?」

G11「誰?」

416「そのムカつく声は…M16!」

M16 「大正解だ！」

〈謎の女 M16A1〉

RO 「な、何故あなたが？」

M16 「それはズバリお前たちに借りを返すためさ。」

SOPMOD 「かり？」

M16 「忘れもしない去年の地獄！絶対に笑ってはいけないグリフィン指揮官養成所  
24時のな！」

5人 「!？」

UMP9 「いや待ってよ。」

M16 「私達が味わった地獄をお前らにも味わってもらおうと、前回お前らがやって  
た役を全部私らが引き継いでやるって訊だ！」

UMP9 「ねえM16ちよつと待ってよ！」

M16 「なんだよナイン？」

UMP9 「私は!!！」

M16 「固定で方正粹だよ。」

4人 「wwwwwwwwwwwwww」

UMP9 「なんで!?!おかしいだろ!おかしいよね?普通私そっちだよね！」

M16 「はいはい無駄口はいいから早く着替えろ。」

今年のテーマはグリフィンがお前ら正規軍の監査を受けるって事になってるんだ。お前らが更衣室から出て来た瞬間に笑ってはいけないスタートだから。」

いつの間にか用意されていた更衣室に押し込まれる5人。

M16 「よし、終わったかな？まずはRO！

お前だ！」

RO 「はい！」

〈ストール印のメガホン正規軍人〉

M16 「まあまあ様になってるじゃ無いか。

次、SOPMOD」

SOPMOD 「はくい！」

〈敵の部品を外して来る猟犬正規軍人〉

M16 「ちよつとサイズでかいがまあ、平気か。

次、G11」

G11 「いやだあ…。」

〈ラムレーズンで動く遅刻魔正規軍人〉

M16 「ははw似合っつてねえ。次ナイン！」

UMP9「……………」

〈死んだ目と貫禄の2年目正規軍人〉

M16「教科書に載せたいくらい見事な死んだ目だな。最後、416!」

416「アンタこの企画終わったら覚えてなさいよ!」

〈例によって1人だけロリスキン〉

M16「似合ってるじゃないか。飴ちゃんいるか?」

416「いるか!」

笑ってはいけない スタート

M16「早速出発、といきたいがまずは上官に挨拶をしてからだな。」

M16に続いて行く5人の足取りは重い。

G11「マジでやるのお?」

SOPMOD「これはこれで面白いかもね!」

RO「遅いわねSOPMOD」

416「ま、ビンタとお色直し無いかと思えば気が楽よ。」

UMP9「お前もそのズボン奪い取ってケツバットでしばいてやろうか?」

そうこう言ってるうちに到着。

M16「M16です。監査に連れて行く5人を連れてきました。」



??? 「入れ。」

416 「あれ私達の指揮官じゃない。」

G11 「うわあ…今年もノリノリだよ…。」

〈正規軍の上司 指揮官〉

指揮官 「君たち5人にはこれよりグリフインの監査に行ってもらおう。しかし、君らは優秀な人材だ。」

もしいざとなった時、直ぐに戻ってこられるように特殊コードを発行する。」

UMP9 「特殊コード？」

指揮官 「RO635」

RO 「は、はい！」

指揮官 「お前の特殊コードは…ニチアサキッズだ！」

SOPMOD 「wwwwwwwwwwww」

ナレーション 「SOPMOD アウト！」

SOPMOD 「痛い！」

RO 「わ、私のっ！私の部屋を見ましたね！」

指揮官 「M4 SOPMOD II」

SOPMOD 「はい！」

SOPMOD 「お前の特殊コードは…クリスマスツリーだ！」

SOPMOD 「りょーかい！」

RO 「なんでSOPMODはそんなに普通なんですか！」

指揮官 「Gr G11」

G11 「はい…。」

指揮官 「お前の特殊コードは…真顔ラムレーズンだ！」

UMP9 「ブフッ！」

ナレーション 「UMP9 アウト！」

UMP9 「いった！」

G11 「そんなこつだろうとは思ってたよ…。」

指揮官 「UMP9」

UMP9 「はい」

指揮官 「お前の特殊コードは…2年目だ！」

4人 「wwwwwwwwww」

ナレーション 「UMP9 G11 SOPMOD RO アウト！」

UMP9 「好きでやってないよ！好きでここにいないよ！」

416 「いった！」



# バスにて その1

5 人はバスに乗り込んだ。

M16 「なにシケた面してるんだよ。まだ始まったばっかだぞ?」

416 「だからこそ先が思いやられるじゃないの。」

G11 「バス途中で寝てていい?」

SOPMOD 「駄目!」

RO 「1人だけ逃すだけでも?」

目的地に向かい動き出すバス。しばらくして

UMP9 「止まった?」

G11 「うわ誰か乗ってきたよ?」

RO 「また凄い面子ですね。」

57 「今日ね!サンタさん来るんだって!」

ネゲヴ 「ねー!」

UMP45 「うん……。」

△プレゼントを貰える良い子達

F i v e   s e v e n

ネゲヴ

UMP45

(3人と

もロリスキン)〈

416 「これオンエア年末だっけ？」

RO 「12/25には1週間遅れだし1/6には1週間早いですね。」

G11 「てかサンタだれ？」

RFB 「良い子のみんなー！ゲームーサンタさんだよー！」

〈ゲームーサンタ Am RFB (Xmasスキン)〉

416 「あんたかよ！」

RFB 「皆欲しいプレゼントは何かなー？」

ネゲヴ 「本場日本の屋台のお祭り！」

※日本は滅んでます。

416 「うわあ…」

UMP9 「これは…」

RFB 「え、えつとおくあなたは？」

57 「野生のキウイちゃん！」

※キウイ鳥 学名：Apteryx ニュージージーランドの国鳥。これが野生で残つて  
る様な自然がドルフロ世界線にあるはず無い。

G11 「絶対無理じゃん。」

RFB 「う、うう…45ちゃんは？」

45 「……………」

泣きながら40の遺影を見せる。

SOPMOD 「あれって、お姉ちゃん？」

RO 「ええ、多分。」

G11 「笑うに笑えないね。」

RFB (ど、どうしよう？私プレゼントゲームカセットしか用意してないよ！)

416 「なんかめっちゃ汗かいてるわね。」

UMP9 「まあ、あれはどれも実現不可能」

「何が不可能だオラ！エー！」

(BGM CRASH 〽戦慄〽)

UMP9 「……………」(一瞬で真顔)

4人「wwwwwwwwwwwwwwwwwwwwww」

UMP40 「ガツデム！」

UMP45 「よん…まる？40！40なのね！」

UMP40 「……………フツ」

〈前回に引き続き蝶野梓 UMP40〉

ナレーション「HK416、G11、RO635、M4SOPMOD II アウト！」

416「痛い！」

G11「いったあ！」

RO「きやあ！」

SOPMOD「痛！」

UMP40「聞いた所によるとこの辺りにクリスマスに1週間も遅れた拳銃、子供達にプレゼントを渡さない馬鹿サンタがいるらしい。お前か？」

RFB「え、あ、あの」

UMP40「質問に答えろ！」

RFB「待つて待つて違います私じゃないです！」

UMP40「じゃあ誰だ！」

RFB「あいつです！」

ナインに濡れ衣を着せるゲーマーサンタ

UMP9「!?」

UMP40「本当か？」

RFB「本当です！あの子の持つてる写真が証拠です！」

40の遺影を指すゲーマーサンタ

UMP40 「おいガキ、本当か？」

UMP45 「うん。」

UMP9 「よ、45姉ええ！」

2人 「wwwwwwwwww」

ナレーション 「HK416 G11 アウト！」

416 「いった！」

G11 「痛い！」

UMP40 「おい、立て。」

UMP9 「え、いや」

UMP40 「いいから立て！」

UMP9 「わ、分かった！分かったから引つ張らないで！」

無理矢理立たされるニン

UMP40 「おい、そこのチビ供。」

ネゲヴ 「はい。」

57 「はい！」

UMP40 「この写真の女はこいつだと思うか？」



57 「うん！」

ネゲヴ 「間違いないよ！」

UMP9 「テメエクソ餓鬼供！」

UMP40 「クソはお前ダア！」

一瞬で黙るナイン。大爆笑の4人。

※笑いましたが最後までお付き合いください。

UMP40 「おいそこのガキ。」

416 「私？」

UMP40 「こいつの様なサンタが許されると思うか？」

416 「全く思わないわ。」

UMP9 「ちよつと416！G11は寝たふりしないで助けて！」

UMP40 「おいSOPMOD」

SOPMOD 「なに？」

UMP40 「こいつを殺つていと思うか？」

SOPMOD 「いいとも！」

UMP9 「こ、この裏切り者供があ！」

RO！もう君しかいないんだ！助けて！お願いだから！」



ナレーション「HK416、G11、RO635、M4SOPMOD II アウト！」

HK416「痛っ！」

G11「痛い！」

SOPMOD「うぎゃ！」

RO「痛い！」

UMP40、ちびっ子達にゲーマーサンタと共に退場。

UMP9「何で……こんなにはやく？まだ、なんの準備もなかったのに？」

5人に乗せたバスは往く。まだ見ぬ笑いの資格達の元に……。

## 指揮官に挨拶

5人に乗せたバスは目的地へ辿り着いた。

M16 「着いたぞー、ここが今日一日お前らが監査する事になるグリフィンHP―0地区中央司令部だ！」

UMP9 「去年と同じ所じゃん！」

416 「最っ悪！」

G11 「お家帰る……。」

RO 「人にした事って、自分に返ってくるんですね…。」

SOPMOD 「みんな暗いよ！いっそ楽しむぐらいでやらないと身が持たないよ？」

416 「あんた程幸せな脳みそしてないのよ！」

M16 「はいはい皆やる気満々で何よりだ。まずはこの指揮官に挨拶しに行くぞ。くれぐれも無礼の無いようにな。」

416 「無礼の無い様について言ったってこの企画が無礼講そのものみたいなものじゃ無い。」

RO 「それ言っちゃいます？」

執務室まで来た。

M16 「指揮官！正規軍から監査に来た者たちをお連れしました！」

「入りなさい。」

〈指揮官 ヘリアントス〉

416 「嘘でしょう！」

G11 「最悪……」

SOPMOD 「あはははは！サンシャインヘリアンだ！」

RO 「ちよつとSOPMOD！」

ナレーション 「SOPMOD アウト！」

SOPMOD 「痛い！」

UMP9 「……お互い、辛いですね。」

ヘリアントス 「ああ……。」

M16 「ほら寝坊助、挨拶。」

G11 「ええ？えつと私は……」

ヘリアントス 「必要ありません。」

それぐらい調べています。Gr G11。その覇気も愛想も無い死んだ様な真顔と

着実に仕事を増やしていくことからお払い箱にされていく宛が無かったところを40











2人「wwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwww」  
ナレーション「G11 SOPMOD アウト！」

G11「いった！」

SOPMOD「うぎやあ！」

ヘリアントス「やりなさい」

ここだと言わんばかりに自分の腹を指すヘリアントス

UMP9「ええ?…ヘリアンさんマジですか？」

ヘリアントス「早くしなさい。」

UMP9「いいのお?…じゃあ、きよ！今日から君も家族だ！」

緩めのパンチを浴びせるナイン。

SOPMOD「……………」

416「……………」

RO「……………」(メンタル大破)

G11「……………フフツ」

ナレーション「G11 アウト！」

G11「痛！」

UMP9(うわあ〜どうしようこの微妙な感じ…………)



4人「www www www www www www www www www www www」

ヘリアントス「お前なんかに分かってたまるか！出てけええ！」

ナレーシヨン「416 G11 SOPMOD UMP9 アウト！」

416「なんなのよもうっ！いだあ！！」

UMP9「なんでこんな上官に身を切らすの！痛い！」

G11「だ、だめ！と、止まんなwww www いったい！」

SOPMOD「あっはっはっはっはっ！痛い！」

## 待機室にて

5人は待機室に案内された。

M16「さ、ここが今日一日お前らに使ってもらおう待機室だ。諸々の準備が整うまでここで待ってもらおう事になる。じゃ、ごゆっくり」

満身創痍のメンバー達、名札が付いている順に手前からSOPMOD、416、G11、UMP9、ROの順に座る。

416「はあ……誰から行く？」

G11「何が？」

416「何がじゃなくて引き出しよ引き出し。」

UMP9「ここは1番後輩のROからじゃない？」

RO「私ですか？」

SOPMOD「早く、誰かがやらなきや始まんないよ？」

RO「う……じゃあ、行きます！……横は三段ともない……真ん中は……うわ！」

〈謎の手紙「通とDVD」〉  
SOPMOD「おおく！」

UMP9 「初っ端から攻めるね。」

G11 「どっちからいく?」

RO 「じゃあ、こっちから。」

片方の手紙を開ける。

416 「なんか書いてあった?」

RO 「指令書、GKチャンネル2を見る。」

G11 「去年もあったよねビデオの奴。」

UMP9 「ゲームもあったよね。」

416 「てことは席的にもアンタがARR-15のポジション」

RO 「言わないで!……もう、覚悟してますから。」

半ば諦めた様な表情でTVをつけるRO

ARR-15 『えー、番組の途中ですがここでニュース速報をお伝えします。』

〈新米キャスター ARR-15〉

G11 「ニュース速報?」

416 「誰かやらかしたのかしら?」

ARR-15 『今日未明、16ラボ前の交差点でペルシカ氏を2トントラックで轢いたとして反逆小隊のAN-94が逮捕されました。』







AR—15 『調べに対してM16は「ROの部屋に仕掛けておいた盗撮カメラを取りに行きたかった。何も後悔していない。」と供述しており、警察は猥褻物不法所持の疑いで捜査を進めています。』

UMP9 「猥褻物www猥褻物って！」

416 「なんでそこだけマトモなのよ！」

RO 「しかもなんでも人の人の部屋に仕掛けてるんですか！」

2人 「wwwwwwwww」

ナレーション 「SOPMOD G11 UMP9 アウト！」

SOPMOD 「ウギヤア！」

G11 「ぐう！」

UMP9 「痛い！」

AR—15 『ちなみにこちらがその盗撮カメラの映像です。』

RO 「!?」

RO (映像、コスプレ済) 『愛をなくした悲しい416さん。このキュアハー●があな  
たのドキドキ、取り戻してみせる！』

RO 「あああああああ!!!」

顔を真っ赤にしてうずくまるRO

416 「誰が愛をなくしてるって!!？」

3人 「wwwwwwwwwwwwwwwwwwwwww」

ナレーション 「G11 SOPMOD UMP9 416 アウト！」

RO 「曝された！全国に曝されたあ！」

G11 「あ、愛を失くした416wwいった！」

SOPMOD 「痛い！」

UMP9 「くう〜！」

AR-15 『以上、反逆ニュースでした。』

416 「アンタらが反逆してるのは常識だよ！」

UMP9 「ブツッ！」

ナレーション 「UMP9 アウト！」

UMP9 「痛い！」

RO 「（顔を真っ赤にしたまま硬直）」

416 「こいつ……動かないわね？」

G11 「そりゃ動けないよ。あんなだけの事があつたら。」

SOPMOD 「じゃあ次誰行く？」

UMP9 「じゃあG11は？」

416 「いいわね。アンタ開けなさい。」

G11 「ええく？やだなあ…」

早速一段目の引き出しを開ける

G11 「うわああああ!!!」

416 「!? 何よいきなりひっくり返って。」

G11 「あ、アレ……」

UMP9 「一体何が…ヒッ!」

〈引き出しの中は鉄血の目玉がギツシリ〉

416 「キツモ!何これ?」

SOPMOD 「あ、私のコレクション!」

416 「アンタなんてもん集めてるのよ!」

SOPMOD 「いーでしょー!これはハイエンドからくり抜いた奴でさ!」

416 「G11他は!?!」

G11 「え、えつと他は…封筒?」

UMP9 「中身は?」

G11 「中身は…ぶぶっ!はっはっはっ!」

ナレーション 「G11 アウト!」

G11 「うぐー！」

UMP9 「? 一体何が？」

G11 「いやだつて w w w w w」

〈M4 「AR—15生きとつたんかワレ！」（イラスト 漫画●郎）〉

3人 「w w w w w w w w w w w w w w w w w」

ナレーション 「416、G11、UMP9、SOPMOD アウト！」

彼女らはまだ知らないこんなのはまだ序の口だと言うことを

# 悪夢は引き出しからやって来る

残る引き出しは416、UMP9、SOPMODとなった。

416 「次、誰行く？」

UMP9 「じゃあ、私が。」

引き出しを開けるナイン

UMP9 「なんか手紙入ってた。」

G11 「他にはなんか無いの？」

UMP9 「なんかヘリウムガスみたいなのが。」

〈手紙とヘリウムガス(?)〉

SOPMOD 「手紙にはなんて？」

UMP9 「えっと、グリフィンタレコミ掲示板を印刷したやつみたいナニナニ？」

||||||||||||||||||||||||||||||||||||

シカゴタイプライター 『なあ知ってるか？』

カー 『何？』

シカゴタイプライター 『HP-00地区基地の噂。』



4人「wwwwwwwwww」

ナレーション「416 G11 SOPMOD RO アウト！」

〈ヘリウムの正体は激臭ガス〉

416「いたっ！」

RO「痛い！」

G11「くそ！」

SOPMOD「いった！」

UMP9「うう…：すっごい鼻に残る〜」

416「たく、しょうもない。さっさと次行くわよ。」

416、自分の引き出しを開ける。

416「これだけね。」

〈30番のロッカーの鍵〉

416「中々大きいロッカーね。」

G11「中身なんだった？」

UMP9「灰色の…：ロッカー？」

416「違う。これ冷蔵庫ね。」

SOPMOD「その中身は？」

416 「中は…はあ!?!」

〈ジャックダニエルのボトル〉

G11 「……………フフツ」

ナレーション 「G11 アウト！」

G11 「いっつ！」

416 「なんに使うつてのよ？」

UMP9 「さあ？」

SOPMOD 「それより先にROのDVDと手紙を見ようよ！」

RO 「え？」

G11 「そう言えば終わってなかったね。」

RO 「……………くそっ」

416 「何ドサクサに紛れて逃げようとしてるのよ。」

UMP9 「で、結局手紙にはなんて？」

RO 「指令書、ディスクをゲーム機に入れる。」

416 「それゲームだったのね。」

ディスクを備え付けのゲーム機に入れる

TV 『電脳刑事!』



チュートリアル『名前を挿れて下さい。……「R0635」さんでよろしいですね？  
それでは、ゲームの世界へ！』

恙無くゲームを進めるR0

私『私の名前は「R0635」警視庁電腦捜査課7係、通称ネット係の刑事だ。』

G11「グラフィックは綺麗だね。」

SOPMOD「半分実写？」

416「みたいね」

私『今日未明、SNS上である女子大生殺害を仄めかす投稿がされ、その投稿の通りに遺体が発見された。』

UMP9「凶悪事件だね！」

416「やばいじゃない。」

私『我らネット係の出番だ。電腦刑事の名にかけて必ず犯人を捕まえて見せる！』

???『誰が捕まえるってオラエー！』

(bgm Crash ～戦慄～)

UMP9「うわああああああ!!!」

いきなり机の下に避難するナイン。

416「あ、アンタいきなりどうしたのよ!？」

UMP9 「だって来るもん！ 40が来るもん！ この音楽がかつたら絶対来るもん！」

RO 「落ち着いて！ ただのゲームの中の話だから！」

UMP9 「げ、ゲーム？」

私 『あ、貴女は！ 40課長！』

〈登場キャラクター UMP40課長〉

UMP9 「はあ？ なんだよ 40課長って！ 紛らわしいんだよ！」

4人 「wwwwwwwwww」

ナレーション 「G11 RO SOPMOD 416 アウト！」

416 「痛い！」

G11 「くっ！」

SOPMOD 「いった！」

RO 「きゃあ！」

40課長 『そう言ってお前が犯人を捕まえた事があつたか？』

私 『い、いや……』

40課長 『あつたか!!!』

私 『ない！ ないです！ ありませんでした！』

40課長 『素直でよろしい。そこでお前に今日から、相棒がつく事になった。』

RO「相棒？」

40課長『入れ！』

????『はい！』

AR—15『AR—15です！よろしくお願いします先輩！』

〈新米警官 ST AR—15〉

416「アンタも何回出て来るのよ？」

40課長『今日からコイツと捜査をして貰う。さあ！まずは捜査会議だ！』

画面が切り替わり会議室に

40課長『それでは捜査会議を始める。MDR！』

〈捜査官 MDR〉

MDR『被害者はAN—94さん21歳。S—09地区在住の女子大生。』

〈被害者 AN—94〉

UMP9「さつき捕まってなかったっけ？」

416「深く考えたら負けよ。」

MDR『現場となった地下駐車場に争った形跡は無く、背後から心臓を脇差の様な刃物で一突きで絶命させられていました。』

40課長『死亡推定時刻は？』

MDR 『SNS上で犯行声明があつた時間帯と一致します。』

40課長 『ガイシヤに何かトラブルとかは?』

SOPMOD 「ガイシヤって?」

G11 「被害者のこと。」

MDR 『特には、話を聞く限りあまり自分から積極的に物事に関わるタイプではなかつた様です。友人も数えるほどしか居ませんし、サークルやバイトもしてませんから、そつち方面でホシを絞るのは難しいかと。』

SOPMOD 「ホシって?」

G11 「犯人のこと。」

416 「意外と詳しいわね。」

G11 「ドラマで覚えた。」(どやっ!)

AR-15 『先輩、先輩。』

私 『何?』

AR-15 『じゃあガイシヤはホシと無関係だつたんでしようか?』

私 『だつたらガイシヤが無抵抗な事に説明がつかないよ。』

AR-15 『あ、そうでしたすいません。』

40課長 『ならそこはネット系のデコとボコに頼むしかないか。なら残りは…』

テキパキと割り振りを決めていく40課長。

40課長『わかってると思うが目撃情報の賞味期限は短い！丁寧に徹底的に調べて調べ尽くせ！』

一同『はい！』

40課長『よし！解散！』

2人も自分達の割り振られたエリアに向かった。

AR-15『それで、これから何をするんですか？』

私『被害者の携帯端末の解析だよ。』

画面が切り替わる。

チュートリアル『それでは早速捜査開始だ！あなた達電腦刑事の敵はズバリネットの向こう！』

UMP9「やっとそれっぽくなって来たね。」

416「しっかりね！」

RO「はい！頑張ります！」

チュートリアル『撃って撃って撃ちまくれ！』

RO「へ？」

〈唐突に始まるシューティングゲーム〉

RO 「ちよ！な、なんで!? あーっ!!」

〈RO、たちまちGAME OVER〉

SOPMOD 「あっはっはっはっ! ROへタクソ!

ナレーション 「SOPMOD アウト!」

SOPMOD 「うぎやああ!!」

RO 「仕方ないでしょあんないきなり!

UMP9 「ねえ、途中でセーブポイントって有ったっけ?」

416 「そう言えば……」

RO 「嘘でしょ!? まさかあの長いオープニングをもう一回ですか!」

G11 「うわあwww」

ナレーション 「G11 アウト!」

G11 「いったあ!」

RO 「次こそは必ず!」

〈RO コンティニュー〉

RO 「来ると分かっていたら怖くなど!……え? 嘘、ちよっ! 待つて待つて私聞いてない!! あーもー!! それ反則!」

416 「動きガッタガタじゃないの!」

3人「wwwwwwwwwwwwwwwwwwww」

〈ROはシューティングゲームがクソ下手だった。〉

ナレーション「UMP9　G11　SOPMOD　アウト!」

UMP9「うわ!!」

SOPMOD「痛いー!」

G11「いっつ!」

416「じれったいわね貸しなさい!」

〈プレイヤー416に交代〉

416「さつきから見たりやあ無駄な動きが多いのよ!」

RO「普段こういうのやらなくて…あ、膝乗る?」

416「ガキ扱いすんな!」

SOPMOD「416はゲーム上手いの?」

G11「私程じゃない。」

ナレーション『撃って撃って撃ちまくれ!』

416「行くわよこのクソが!オラ死ぬ!!はあ!?!今の当たってたでしょ!?!このゴミど

もが!!」

RO「口悪っ!」

UMP9 「ロリスキンのせいだなって言うか……」

G11 「小憎たらしくなって来た小学生みたい。」

SOPMOD 「確かに」

416 「あーチクシヨウ！これクソゲー！」

〈シューティングゲームとしてもまあまあ難しかった。〉

G11 「ええ〜？」

SOPMOD 「結構鬼畜だね。」

UMP9 「G11やってみてよ」

G11 「めんどくさい……」

〈プレイヤーG11に交代〉

RO 「とかなんとか言いつつゲーム上手ですな。」

416 「この駄メイド銃とゲーム以外からつきしなのよ。」

UMP9 「あと何処でも寝れることかな？」

G11 「寝めるかデイスるかどっちかにしてくれない？」

AR115 『何か分かりましたか先輩？』

私 『ああ、上手くいけば大捕物だ！』

2人、車で急行。着いた先はマンション



AR—15 『ここですね。ごめんください！カーリナ運送です！』  
返事はない。

AR—15 『…アレ？ドア開いてるしこの匂いって！』  
血の匂いを感じて突入する。

私 『あなたは…ヘリアンさん！』

〈真犯人 ヘリアントス〉

5人 「wwwwwwwwww」

ナレーション 「全員 アウト！」

416 「何回出てくんのよ！いったあ！」

SOPMOD 「また婚期遠のくよ!?!いつつ！」

G11 「痛い！」

RO 「痛！」

UMP9 「うぐう!!」

ヘリアントス 『だって、だって仕方ないだろ!!全部こいつらが悪いんだ！独身仲間に勧められて始めたドールズフロントライン、何故かUMP9しか出ない！今日から家族だあ？独り身の私への当て付けか!?!』

416 「知らないわよそんな事wwww」

ヘリアントス『それをこのバカは笑いやがったんだあ!!!』

〈第二の被害者 カリーナ〉

G11「いやソイツ上司の娘ww」

SOPMOD「うわくやちやったねww」

AR15『知るかそんな事!!』

UMP9「え?強!」

AR15、ヘリアンを確保

AR15『ふう、これで一件落着ですな!なんか終わったら安心してお腹空いちやいました。ラーメンでも食べに行きましょうよ、先輩の奢りで!』

私『ハハハハハハハハ』

ナレーション『何笑ってるんだRO、お前が後手に回ったせいで人が死んでるんだぞ!お前はタイキツクだ!』

5人「!?!」

ナレーション「RO タイキツク!」

4人「wwwwwwwwwwwwwwwwwwwwww」

ナレーション「UMP9 G11416 SOPMOD アウト!」

SOPMOD「そう言えばROの席去年のAR15の席wwwwうぎや!」



## 最後ノ引出

いよいよ引き出しはSOPMODのもののみとなった。

416 「最後だしさっさと終わらせたいのに」

G11 「なんで3つも出てくるかな？」

SOPMOD 「とりあえずこれは最後？」

〈謎のスイッチ〉

RO 「時間かかりそうですしね。」

UMP9 「じゃあこれから？」

〈1番のロッカーの鍵〉

G11 「それもまあまあ時間かかりそうじゃん。」

SOPMOD 「じゃあやっぱこれから？」

〈レコーダー〉

416 「まあ聞いたら終わりそうだしね。」

レコーダーを再生する。

？ (男性) 『ひ、ひいーや、やめてくれ……話す、全部話すから！』



SOPMOD、1番のロッカーを開ける。

UMP9 「また大きいなあ……」

G11 「掃除ロッカー？」

SOPMOD 「www」

ナレーション 「SOPMOD アウト！」

SOPMOD 「痛い！」

RO 「何が入って？」

SOPMOD 「いやwww これは笑うよwww」

トカレフ（大破） 「……」

〈非常用懐中電灯 トカレフ〉

4人 「wwwwww」

ナレーション 「全員 アウト！」

SOPMOD 「いった！」

RO 「ぎゃあ！」

416 「うぐつ！」

G11 「痛い！」

UMP9 「いたあ！」

トカレフ（大破）「……………」

UMP9 「なんか…掃除ロツカーからボロボロの服って…なんないじめられてるみたいww」

2人「wwwwwwwwww」

ナレーション「416 G11 UMP9 アウト！」

416 「ナイン余計なことを!!」

G11 「いつてえ！」

UMP9 「ごめーん！」

トカレフ退場

416 「はあ…はあ…たく。後はそのスイッチだけね。」

SOPMOD 「よしそれじゃあ！青春スイッチオン！」

?? 「よっ！…：呼ばれて飛び出てジャジャジャーン！」

5人「!?」

突如星条旗のタキシードとハットを身につけた M4A1が登場。

M4 「う、うう…：ウワアオ！は、ハッピーガールウ…」

〈ハッピーガール2世 M4A1〉

2人「wwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwww」

416 「これは……」

RO 「笑うに笑えませんが。」

UMP9 「去年私以外ノリノリでやってだからね。」

前作4話参照

SOPMOD 「あはははははははははははははははは!!何それM4?壊れちやったの? ???」

G11 「あははは!あーっはっはっはっはっはっはっはっ!何それ!?はっはっはっはっはっはっはっ!」

M4 「……ツ!……ツツツツツ!!!」

UMP9 「性格変わる!」

416 「自分のこと棚に上げていいも言ったりね。」

RO 「去年皆で嬉々としてやってたのに……」

M4 「う、うわああああああ!!」

M4 号泣しながら退場。

416 「あちやく」

UMP9 「まあなるよね〜」

RO 「仕方ないですよM4の性格なら。うん?」

SOPMOD 「どしたの?」

RO 「いやなんかモニターが…」



? (モニター越し) 『ちよつとM4!』

G11 「あれって廊下の映像?」

UMP9 「みただけど…」

〈ハッピー軍団ver2 ST AR—15 AK—12 AN—94〉

416 「揃いも揃って何やってるのよ!」

AR—15 『あんたが尻込みしてどうすんのよ!』

M4 『い、ごめん…』

AR—15 『ごめんで済むなら警察はいらないのよ!!』

UMP9 「うわキツツww」

416 「AR—15ってこんなキャラだっけ?」

G11 「気にしたら負けだよ……」

AN—94 『あ、あの…その辺に』

AR—15 『黙ってる言いなり女!』

AN—94 『なんですって! 4人の中で唯一スキンがあるからって見下して!』

ガチトーンで喧嘩開始

RO 「うわあ……」

416 「あれ本気の喧嘩じゃない?」

S O P M O D 「まあ、普段からあんまり仲良くないけど……」

A K—12 『あらあらあら、ほら何やってるのよこんな往來のど真ん中で』

M 4 『ど、どうにかしないと……あれです!』

部屋に駆け込んでくる M 4

M 4 「ナイン!」

U M P 9 「わ、私!」

M 4 「そのジャックダニエルの瓶を!」

U M P 9 「え? これ?」

4 1 6 「それ私のやつ……」

M 4 「ありがとう!」

瓶を受け取り廊下に戻る M 4

M 4 『いい加減にしなさい! えーい!』

A K—12 『があ!』

酒瓶、2人を仲裁していた A K—12 にクリーンヒット

A K—12、ピクリとも動かなくなる。

A N—9 4 『え? ……ええ?』

A R—1 5 『M 4 ……アンタ……』

M 4 『こ、こんなつもりじゃ……』

G 1 1 「何この展開……」

M 4 『こうなったら、仕方ない!』

M 4 ハットのの中から拳銃を取り出す。

7 人 『!?!?』

突如、画面がブラックアウト。鳴り響く銃声、そして何かを引きずる音。

4 1 6 「いや……はい?」

U M P 9 「何だったの?」

S O P M O D 「さあ?」

後にこの一件が、メンバーを地獄に落とすことに。

M 1 6 「おー、皆無事か。なんでもさつき発砲事件が起きたらしいから、これから避

難を兼ねて我が司令部が誇る最難関訓練を体験するため移動するぞ!」

G 1 1 「ええめんどくさ……」

4 人は移動した新たなる刺客達の元に

## 鬼ごっこ開始

一同はあるグラウンドに連れてこられた。

M16 「よーし着いたぞ。まずは訓練しやすい格好に着替えてくれ。」  
オープニングの時と同じ個室で着替える。

416 「で、着替えたけど」

RO 「G11だけ違いますね。」

〈G11だけ防弾装備〉

G11 「なんでこんな私だけガチガチなん？」

M16 「ああ、それだけ爆弾だからな。」

5人 「!?!」

M16 「因みに一回着けたら自分で外せないからな。」

G11 「嘘……本当に外れない。」

M16 「因みに5時間で爆発するから、万が一の為にあつちの対爆弾用の個室に入つてもらう。」

突如現れた黒い全身タイツガラス張りの個室に連行されるG11

G11 「え待って？ いやちょっと離してよ！ うわあー！」

M16 「因みにあのケースの外で爆発すると半径25キロが更地になるから。」

5人「!？」

M16 「解除できるのはあのケースのドアのと同じ鍵だけ。間違った鍵を使うとG11にお仕置きだから。」

G11 「え？」

416 「それで爆破したりとかしないの？」

M16 「そこら辺はプロがやるから安心してくれ。さ、この敷地内のどこかにある鍵を探してもらおう訳だが、お前ら4人がやるんじゃ割と直ぐに見つけちゃいそうだから、素人を連れてってもらう。」

UMP9 「素人？」

M16 「どうぞ！」

ステージから白煙が上がり

?????  
「イーヤッホー！」

〈素人 ペルシカ〉

RO 「ペ、ペルシカさん!？」

SOPMOD 「嘘お……！」

416 「あなた、死ぬつもりですか？」

UMP9 「てかなんでこんな所に？」

ペルシカ 「いやー、周りからいい加減運動した方がいいって。」

416 「だからって……」

RO 「こんな所に来なくていいのに」

ペルシカ 「楽しそうだったから！」

UMP9 「い、命知らずな……」

M16 「それじゃあ皆準備はいいな？それじゃあ、鬼ごっこスタートだ！」

ペルシカが出てきたのと同じステージから鬼が出現。鬼ごっこスタート。

布団叩き鬼 「！」

UMP9 「キタキタキタ！」

416 「散れ！散って！」

布団叩き鬼、ペルシカをロックオン。

ペルシカ 「え？来るの？うわー！」

SOPMOD 「あ、捕まった。」

ペルシカ 「ちよつと待って優しくしいったあ！」

416 「痛そ……」

UMP9 「洗礼だよ、慣れてもらわないと」

その頃G11は

G11 「……………フツツ」

高みの見物。

416 「大丈夫ですかー？」

ペルシカ 「お、思ったより痛い……………」

UMP9 「色んな意味で去年よりパワーアップしてるね。」

RO 「それじゃあ、鍵を探しましょうか。」

アナウンス 『訓練開始から10分経過。鬼、増員します。』

グラウンドをROとUMP9が、建物の中を残り3人が担当。

ペルシカ 「じゃ、私は上の階見てくるね。」

416 「どうする？」

SOPMOD 「右にも左にも通路あるしね。じゃあ、どちらにしようかな天の神様の

言う通り！左！」

416 「じゃあいきましたようk 「助けてー!!」

2人 「!？」

ペルシカ 「見つかったちゃった！」

416 「あいつ鬼連れてきてんじやない！」

SOPMOD 「しまった！左行き止まりだ！」

ペルシカ 「そんな！」

シヨベルカー鬼「！」

3人、確保。

RO 「あれって…」

UMP9 「なんか10人がかりぐらいで連行されてる…」

416 「離せ！離しなさいこの！」

SOPMOD 「待って待って！せめて何をするか教えてよ！」

ペルシカ 「やめてー！」

RO 「シヨベルカーって何やるんでしよう？」

UMP9 「比喻でもなんでもなくマジのシヨベルカー使うみたいだけど…」

カルカノ妹 「ウイーンガシャン、ウイーンガシャン。皆轢き殺すぞー。」

〈シヨベルカー運転手 カルカノm91/38〉

416 「嘘でしょ!? 待ってお仕置きされるのはいいからせめて姉の方にして！ 命

がいくつあっても足りない!!」

シヨベルカー鬼達、416とSOPMODをシヨベルカーのアームに、ペルシカを地



面に固定。

シヨベルカー鬼「！」

UMP9 「なんか看板掲げてる」

RO 「なにになに？ 専門家の指導のもと安全に行っております？」

416 「こんなもんに専門家もなにもあるか!!!」

SOPMOD 「うわああああ!!動いたああ!!」

ペルシカの周りをめちやくちやに動きながらシヨベルカーダンス!

UMP9 「おお！」

RO 「迫力ですねー。」

ペルシカ 「ツ!!!」

カルカノ妹 「ガツシャンガシャン!本番いくぞー!」

鬼達が戻って来てペルシカの前に何やら装置をセツト

UMP9 「何あれ？」

RO 「なんか黒い風船が……」

カルカノ妹 「よーし!風船割るぞー!」

ペルシカ 「え!?! 何? 風船ってn」

風船の下に消えるペルシカ。

シヨベルカーがアームで風船を圧迫

風船「パァアアン!!!」

ペルシカ「……………」

416「し、死ぬかと思った……………」

SOPMOD「目え回る〜」

UMP9「おつかれー」

RO「ん？ 見てください！ 鍵が落ちてます！」

SOPMOD「ホントだ!!」

416「さつき無かったわよね？」

ペルシカ「て事はさつきの風船の中から？」

UMP9「ペルシカさんナイス！ G11〜！ 鍵持って来たよ！」

G11「んー、あんがと。」

すっかりゴロ寝で寛いでるG11

416「はいはい。もう休憩は終わり…あれ？」

RO「どうしました？」

416「いや鍵が入らなくて」

ナレーション「G11 お仕置き！」



## グラウンドにて

G11への制裁が終わると5人は建物の中を探した。

416「A棟とB棟とあるけどどっちに行く？」

UMP9「じゃあグーパーで決めない？」

結果、A棟(グー) SOPMOD ペルシカ

B棟(パー) 416、UMP9、RO。

ペルシカ「とりあえず一階から調べるか。」

SOPMOD「ですねー。」

ペルシカ「ない、ない……ん？この箱は！」

SOPMOD「なんか見つけました？」

〈謎の球体関節人形〉

ペルシカ「えー、この紙によると……身代わり人形？」

SOPMOD「て言いますと？」

ペルシカ「鬼に捕まった時、これを渡して自分以外のメンバーの名前を言うとそのメ

ンバーがお仕置きされます？」

SOPMOD 「何それ面白い！」

2個あるし1つづつ持ちましようよ！」

ペルシカ 「いいねいいね！誰にやる？」

SOPMOD 「416！」

ペルシカ 「私も私も！」

416 「くっしゅん！」

UMP9 「416風邪？」

416 「違う：ゴミでも入ったかな？」

RO 「それより鍵探しましょう。

グズグズしてたら鬼が増えますから」

掃除ロツカーを開けるRO

???鬼「！」

中から鬼出現！

RO 「しまった！」

416 「なんて書いてある？」

UMP9 「ピエロ。」

ピエロ鬼「！」

ピエロ鬼、ROの顔に何かを塗っていく。

RO（ピエロメイク済み）「……………」

ピエロ鬼「！（サムズアップ）」

UMP9「うわあ……………」

416「それ落ちるの？」

RO「わかんない。」

416「まあ、その…元気だしな？」

RO「はい……………」

一階の調査を終え、一度集まる一同。

416「そっちあったー?!」

SOPMOD「なんもなーい！（大嘘）」

ペルシカ「てかROその顔どうしたの？」

RO「ピエロ鬼に捕まって……………」

ペルシカ「ピエロ？って来た！」

スリツパ鬼「！」

ハリセン鬼「！」

RO「走って走って！」

スリッパ鬼「！」

UMP9「痛い！」

ハリセン鬼「！」

RO「あ、SOPMOD捕まった。」

SOPMOD「416、416！（小声）」

ハリセン鬼「！」

身代わりを受け取った鬼、416をロックオン。

416「はあ!?　なんでこっちに痛っ！」

UMP9「な、何が!？」

RO「完璧にSOPMODだと思ったのに。」

416「おかしいでしょ！　アンタなんかした!？」

SOPMOD「何にも？　鬼も416な気分だっただけじゃない？」

416「何よ416な気分って！」

UMP9「兎に角早く建物戻ろうよ。また鬼が増える時間だよ！」

二階の探索開始。

416「納得いかない！」

RO「まあまあ落ち着いて。」

UMP9 「気にはなるけど一応TVに流れるものだから撮れ高的な話もあるってことじゃ」

416 「あんたがビンタされる以上に面白い絵なんてそう無いけど？」

UMP9 「確かにそうだけどそれはもう終わったから！」

RO (完全に油断してますね……)

見計った様に鬼が出現

風船鬼「！」

416 「来た来た来た！」

RO 「早く走って！」

UMP9 「え？嘘！」

完全に油断していたナインをロックオン。

UMP9 「待って待って何つけてるの!？」

ナイン、背中に無数の黒い風船をつけられる。

416 「うわ、これは……」

RO 「来ないで下さい鬼が来ます。」

UMP9 「ちよつと待ってよ！2人とも！

ねえ待ってよ！ねえってば！」



外に出る2人。SOPMODとペルシカは先に来ていた。

SOPMOD「あれ？416にRO？」

ペルシカ「なんであんなに急いでってあ…」

風船をつけられたナインが登場。

SOPMOD「なんかすごいポリューミーなのつけてる……」

ペルシカ「高さはざっと5メートル、どこから見ても気付くね。」

UMP9「待つてよ！なんで皆逃げるんだよ！」

SOPMOD「うるさい疫病神！」

ペルシカ「こつちくるな！」

UMP9「酷いよ皆ってあ！」

ゴボウ鬼「！」

ゴボウ鬼、ナインをロックオン。

416「あのゴボウで叩かれるの？」

SOPMOD「痛そ〜」

RO「もの凄い必死に逃げてますね。」

ペルシカ「あ、風で転んだ。」

ナイン、風船の中に隠れる。

416 「アイツ鬼をタツクルで転ばしてゐるわよ。」

RO 「どんだけつかまりたく無いんですかww」

風船の紐が絡まって酷い事になってるUMP9

G11 「うわぁwwww 何アレwwwwww」

牢屋の中1人余裕のG11

ペルシカ 「あ、もう3人来た。」

ハリセン鬼 「！」

ゴムパッチン鬼 「！」

タイキツク鬼 「！」

416 「流石に4人がかりには捕まったわね。」

UMP9 「お願い！お願いまっ痛っ!!」

容赦なくハリセンとゴムパッチンが振るわれる。

UMP9 「う、うう…待って下さい二連チャンはいぎやあああ!!!」

タイキツク、ゴボウと連続で尻に喰らう

4人 「wwwwwwwwwwwwwwwwwwww」

UMP9 「もうなんなの！早く終わってええ!!」

※ここからは尺の都合でダイジェストでお送りします。

クリームパイ鬼「！」

RO「嘘でしょピエロの上にクリームってぶふっ！」

顔面にクリームパイをくらうRO

SOPMOD「あははは！まさしくピエロだ！」

ウルトラハリケーン鬼「！」

椅子に拘束されるSOPMOD

SOPMOD「この椅子にハリケーンってまさか……うわあああああああトメ

テエえええええええええ!!!」

ありえないスピードで高速回転するSOPMOD

バケモノ鬼「！」

ペルシカ「416、416！（小声）」

身代わり人形を受け取った鬼、

416をロックオン。

捕まえて、8人がかりで刑を執行する。

UMPP9「バケモノって何？」

ペルシカ「さあ……」

416「……!!!」

顔をテープで歪められた416が登場

UMP9 「うわあああああバケモノだあ!!」

416 「あいつ……(怒) ちよつとナイン！」

UMP9 「黙れ! 名前で呼ぶなバケモノ！」

3人 「wwwwwwwwwwwwwwwwwwww」

「ジャイアントスイング鬼「!」

「ジャイアントスイング鬼 ベレゾヴィツチ・クルーガー」

ペルシカ 「く、クルーガーさん? ま、待ってよ私生身の人間んんん!!!」

UMP9 「うおお飛んてった!」

SOPMOD 「ターマヤー!!」

襲いくる鬼達。

回を増すごとに厳しくなるお仕置き。

人形達は疲弊していった。

UMP9 「い、今ので、何回目?」

RO 「ペルシカさんが29回目

ナインが27回目、私が21回目。

416が17回目で、SOPMODが14回目。」

416 「あんた、数えてて悲しくならない？」

RO 「なりますよそりや……」

SOPMOD 「鍵は見つからないし10分に一回誰かが新しい鬼にやられるし会場は殆ど全部探したし!!」

UMPG 「いい加減につて来た！」

?????  
鬼「！」

416 「なんて書いてある？」

SOPMOD 「16連撃！」

16連撃鬼、ペルシカをロックオン。

ペルシカ「つ、捕まった！」

2人がかりでペルシカを拘束。

ゴボウを持った16人の鬼が現れ

ペルシカ「嘘でしよ待って待ってやだヤダヤダアアアア!!!に、ニヤアアアアアア

アアアアアアアア!!!」

休み無く、容赦なくスネにゴボウが振るわれる。

ペルシカ「あ、ああ……」

UMPG 「ペ、ペルシカさーん！」

RO「あの人もう立ってないんじゃない?」

すると突然M16が出現。

M16「おつかれー。」

416「何の用よ?」

M16「いやさ、鍵なんだけど私が持ちっぱなしだったんだわ。」

UMP9「はあ!?!」

RO「いや待ってください私達何の為にやってたんですか!?!」

SOPMOD「もー嘘でしょ!?!」

416「あんたって奴は!!」

M16「ま、そうゆう訳だ。戻るぞー。」

5人の戦いはまだ続く。

笑いの刺客達は、次なる矢をつがえていた。

ペルシカ「……………あれ?……………もしかして、置いてけぼり?」

誰かいないの!?! スネが痛くて立ってないの!?!」

## お昼ご飯

5人は待機室に帰還した。

G11「……うわ、なんかあるよ。」

テーブルにはそれぞれ1つずつ蓋の付いたトレイが置かれている。

UMP9「…なんか手紙が…」

RO「なんて書いてありますか？」

UMP9「えー、皆さんに用意したお昼ご飯は鬼ごっこでお置きされた回数に応じて豪華さが違います。

お置ききされていない優秀な人ほどいい料理が出されます。

ちなみに順番は以下の通りです。

一位 M4 SOPMODII二位 HK416 三位 RO635 四位 UM

P9 五位 G11（ヘリアン）。PS引き出しの中身はリセットされています。」

416「もおお！去年と同じパターン！」

〈地獄の引き出しネタ再び〉

RO「最悪……」

G11 「嫌だあ！」

SOPMOD 「やった一位だあ！」

ナレーション 「SOPMOD アウト！」

SOPMOD 「痛い！」

UMP9 「で？誰から行く？」

416 「そりゃG11からでしょ？」

G11 「ええー？」

RO 「ええー？じゃない！」

UMP9 「鬼ごっこで一番楽しってたのG11だよ！」

G11 「わかったよお…え？」

〈五位の昼食 プチトマト一個〉

G11 「これ…だけ？」

UMP9 「もはや料理じゃないね。」

416 「うん…ドンマイ。」

RO 「味わって食べな？」

G11 「ちよつと！」

SOPMOD 「じゃあ次はUMP9？」





RO「……………」

エゴールの顔を潰しながら食べるRO

416「次は私ね。何なに？」

〈二位の昼食 牛丼〉

SOPMOD「やったじゃん！」

416「二位のアンタが言う？」

UMPG「そう言うSOPMODはどんななの？」

SOPMOD「私のは…」

〈一位の昼食 海鮮尽くし〉

SOPMOD「うわああく!!すっごおい!!」

UMPG「やっぱりするい！」

ナレーション「SOPMOD アウト！」

SOPMOD「いっつ！」

みんな揃っていたきます。

G11「プチッ

RO「…」モグモグ

416「……………」ムツシムツシ









## 引き出しの奥

続いてSOPMODは14番の鍵を開けた。

SOPMOD「なんかハンドガン入ってた。」

〈ハンドガン〉

416「うわ!ちよつとこつち向けないでよ!」

UMP9「打たないでよね!」

SOPMOD「んゝ、でも偽物っぽいし…バーン!」

G11「うわあ!」

〈引き金を引くとなぜかG11の上着が爆発。〉

UMP9「……ふふっ。」

ナレーション「UMP9 アウト!」

UMP9「痛い!」

416「次は私?」

RO「お昼の順番なので。」

416「怖いな…なにこれお饅頭?」

UMP9 「大福じゃない？」

〈謎の大福〉

416 「別に食べても何ともないわよ？」

UMP9 「てつきりしびれ生肉でも入ってるかと思ったのに。」

G11 「ただ引き出しに入ってたって衛生上どうなの？」

RO 「まあ、強いて問題上げるならそこぐらいですか。それ以外には？」

416 「とくになにも。」

RO 「じゃあ私ですね」

RO、引き出しを開ける。

RO 「私の分もありました。」

〈謎の大福×2〉

RO 「だれかもう一個食べます？」

G11 「じゃおなかすいてるし頂だい。」

仲良く大福を分ける二人。

UMP9 「他にはないの？」

RO 「えつと……DVDが」

〈謎のDVD〉







SOPMOD「多分。」

ナレーション『エゴール大尉から噴き出した大量の汗、

それを吸水性の高いタオルで丁寧>fukitoriにふき取り、

絞って集める。』

416「きつたな！」

RO「馬鹿じゃないですか!？」

ナレーション『火にかけ余分な雑味を取り除き、エリート塩が完成。

それを惜しげもなく使った一品が、当司令部名物、エゴール大福である。』

UMP9「あの大福ってww!あの塩田福ってwwwwww!!!」

RO「うっそでしよおおおおお!!!」

416「気持ち悪っ!!!」

G11「丸々1個食べちゃったよおおお!!!」

SOPMOD「wwwwwwwwww!!!」

ナレーション「416 SOPMOD G11 UMP9 アウト!」

お仕置き執行、しかしエゴール塩のインパクトが強すぎて全く応えず。

416「気持ち悪!気持ち悪!!!」

RO「あ、あんなやつ、あんなやつ!!!」

G11 「私、おなかすいてて結構がつつり食べちゃったんだけど!!!」

UMP9 「一生取れないよ? エゴール塩。」

416 「ヴェエエエエエエエエエ!!!」

G11 「いやだああああ!!!」

RO 「だれか殺して!! お願いだから!!」



SOPMOD 「痛い！」

RO 「きやあ！」

G11 「うぐっ！」

416 「痛！」

UM P9 「……ブフツ」

M16 「おーおー、ずぶ濡れじゃないかナイン。着替えあるからこっち来い。」

UM P9、M16 に連れられて退室。

416 「これってさ。」

G11 「お色直しだよね。毎年恒例の。」

SUPOMOD 「ぐ、ふっふっふ」

RO 「フフ」

ナレーション 「SOPMOD RO アウト！」

RO 「痛い！」

SOPMOD 「いーっつ！」

416 「で、どうする？ ナインが来るまでにG11の終わらせちゃう？」

G11 「そうしょつか？ ん？ なにこれ？」

〈プレゼントの箱〉

SOPMOD「なにそれ？」

G11「なんか入ってる……ケーキだ！ 蠟でできた偽物だけど。」

RO「チョコの所になんか書いてありますね。」

416「ハッピーバースデーG11？」

G11「別に今日誕生日じゃないんだけど？」

SOPMOD「まあいいじゃん！ せっかくマツチも一緒に入ってるし！  
ケーキの蠟燭に点火。電気を消す。

SOPMOD「ハッピーバースデートウユウ」

RO「ハッピーバースデートウユウ」

416「ハッピーバースデーアG11〜」

4人「お誕生日、おめでとー!!」

拍手が響く。

G11「うん、よくわかんないけどありがと……あれ一人多くない？」

416「は？ 何言ってるのよ。」

RO「そんなことないですよ。」

SOPMOD「もー流石にこんないたずらには引つかかないよ。」

くぐもった声「ねー。」

3人「!?」

G11「ほら言った!なんかいる!確実にいるよ!」

416「だれか電気!電気付けて!」

電気がつくそこにいたのは

UMP9「やつほー」

〈燃え上がれ!の方のガンダムのヘルメット+下着いっちょのUMP9〉

416「アンタまたすごいカッコにさせられたわね。」

RO「それ、大丈夫なんですか?いろんな意味で。」

SOPMOD「また思い切ったことしたね。」

G11「えっと、じゃあ次行こうか。」

UMP9「ねえ!みんな人が恥を忍んでやってるのに反応薄くない?」

G11「ん?なんかカギとDVD出て来た。」

416「どっち行く?」

G11「んー、DVDかな。」

RO「本気ですか?タイキック宣言とか知りたくもない物とか写ってる魔のアイテムですよ?」

G11「だったら尚更さっさと片づけたいよ。お願い。」



SOPMOD「ロジャー！」

DVDを再生。

416「これってこの部屋のカメラ映像？」

RO「日付が正しければ昨日の夜らしいですけど」

G11「あ、誰が入ってきた。」

SOPMOD「キヤリコにサンダーじゃん。」

〈M950A Thunder〉

キヤリコ『へー雰囲気あんじゃん。』

サンダー『やめましょうよ、こんなの良くないです。』

キヤリコ『なに？まさかビビってるの？』

サンダー『そうじゃなくて、これ不法侵入ですよね？』

キヤリコ『ええ、けど例の噂の動く人形の犯人さえとつちめればおつりがくるわ。』

室内を物色しだす二人。

何か小さい動くものがキヤリコに向かっていく。

キヤリコ『ん？なんか音がうつ！』

キヤリコ、飛び掛かられた瞬間、倒れる。

サンダー『ヒッ！キヤ、キヤリコ？』

なんですとか急に黙って……悪戯なら怒りますよ?』

カメラが暗転

サンダー『え? ロツカーが勝手につて! う、嘘でしょ? い、いや!

ああああああああああ来ないで来ないで来ないでえええーっっっツツツ!!!』

映像終了。

5人「……………」

G11「ね、ねえ? ま、まさかと思うけどこの、この鍵つてサンダーの言つてたロツ

カーのカギなんじゃ」

416「ご愁傷様G11。骨は拾うわ。」

G11「冗談でも言わないでよ!」

いやいやながらもロツカーを調べていくG11。

G11「違う・・違う・・ここだ。」

扉を開ける。中から布をかぶせた籠が出て来た。

G11「なにこれえ?」

SOPMOD「ロクなものじゃないだろうけど」

???「出してくれえええ・・俺をこの狭い箱から出してくれえ!」

5人「!?!」







G11 「えだーい！」

SOPMOD 「うぎゃあ！」

RO 「ツツツ!!」

UMP9 「く、くっそが!だ、誰か武器の方のG11の開発日を知ってる人は……」

SOPMOD 「そうじゃなくて設計日かもよ?」

416 「生産日ってこともあるわね。」

RO 「どれにしろ知ってる人は?」

誰も手を上げない。

UMP9 「嘘でしょ!?待って待ってだとしたら私このまま」

ナイン人形 「惨めだな!あっはっはっはっは!」

UMP9 「お前は黙れ!頼むから黙っててくれお願いだから!」

ナレーション 「UMP9 アウト!」

UMP9 「違う私じゃない!わたしじゃああああああ!!!」

416 「うわお尻もう真赤。」

G11 「さすがに同情するね」

UMP9 「じゃあ助けてよ!この地獄をどうにかしてくれよ!」

RO 「……一個、試したいことがあるんですけどいいですか?」

UMP9 「なに？この際何でもいいけど？」

RO 「カギに0711って入れてみてくださいませんか？」

UMP9 「開いた！」

416 「え？嘘！」

SOPMOD 「すごいじゃんRO！どうしてわかったの!？」

RO 「もし誕生日ケーキがひっかけで、武器の方のG11にも人形の方のG11にも共通してる数字とすればそれぐらいしか思いつかなかったので。」

UMP9 「11は分かるけど07ってどこから来た？」

RO 「Gはアルファベットの7番目なので。」

UMP9 「なんだよそれフザケンナあああ!!」

## 締めはやっぱりこれだろう

極限まで疲労が高まる中、遂に最後にイベントがやって来た。

M16 「お前ら！これから最後に重大な報告があるから体育館に集合だ！」

416 「体育館？」

G11 「まだなんか有ったっけ？」

RO 「粗方出尽くしたと思いますが？」

一同、体育館に移動。

最前列に並ばされ、開始を待つ。

SOPMOD 「最後だし派手なのが来ると良いなあ！」

UMP9 「派手なのって何さ？」

SPAS12 「えー皆さんお集まりですね？私は警備責任者のSPAS12です。」

〈警備責任者 SPAS12〉

SPAS12 「今回皆さんに集まっていたいたのは他でもない。

今この中に、正規軍を侮辱した不屈き者がいるとの事です！」

G11 「不屈き者？」







ナレーション「G11 RO SOPMOD 416 アウト！」

416「痛い！」

G11「くっ！」

SOPMOD「いった！」

RO「きゃあ！」

〈超凄腕尋問官 UMP40〉

UMP40「この中で、もしほんの僅かにでも自分ではないかと思う者は、手を挙げろ。」

誰も手をあげない。

UMP40「そうか、それは残念だ。

ではまず、我々がどうやって犯人を突き止められるかを説明しよう。

我々はメットから採取した毛髪から似顔絵を作成した。

それがこれだ！」

〈ナインそつくりの似顔絵〉

416「……………ッ！」

G11「フフッ」

SOPMOD「ププッ！……………クッククク……………」

RO「髪型まで一緒じゃないですかwww」

UMP9「……………」

UMP40「では調べていくぞ。」

尋問官、5人のもとへ。

UMP40「お前は、違うな。」

416「……………」

UMP40「お前も、違うな。」

G11「……………」

UMP40「お前も、だいぶ違うな。」

RO「……………」

UMP40「お前も、違うか。」

SOPMOD「……………」。ワクワク

UMP40「お前は「違います。」…おま「違います!」…。」

4人「wwwwwwwwwwwwwwwwwwww」

ナレーション「RO G11 SOPMOD 416 アウト!」

RO「ぐう!」

G11「ぎゃー!」

SOPMOD「痛い！」

416「いった！」

UMP40「けど似顔絵とそっくりだぞ？」

UMP9「他人の空似です！他人！他人ですよ！」

UMP40「にしては随分必死だな？……お前だろ？」

UMP9「違いま「いいから来い！」痛い痛いやめて！やめてよお！」

無理やり壇上にあげられるサイン。

UMP9「待って！待ってよないじゃんこんなものつて無いじゃん！」

UMP40「だったら証拠を見せて貰おう……あれ連れて来い！」

SPAS12「はい！こちらに。」

G41「わんわんわん！」

UMP40「警察犬型人形のG41だ。」

〈警察犬型人形 G41〉

UMP40「ヘルメットに残った匂いとお前の匂いを比べる。」

G41「スンスンスン……スンスン、バウバウバウ！」

UMP40「やっぱりお前じゃねえかあ！」

